

僕の生き方～「富貴」で学んだこと～

富貴中学校 三年 中川 優希斗

「今年は、将来について考える大切な年です。」

三年生の四月、校長先生の集会での言葉が、僕の心に響き渡りました。

なぜなら、僕は、将来の夢を、まだ具体的に決めることが出来ていないからです。去年の夏、職場体験学習がありましたが、行き先を決めるのに随分悩みました。しかし、三年生になると、将来を見据えて、進路を決めていかななくてはなりません。

そこで、僕は、将来について、これまで僕を支えてくれた、身近な「大人の方々の姿」から学び、じっくりと考えていこうと決めました。

身近にいる「大人の方々の姿」といえば、僕の「母」や「地域」の方々の姿です。

僕の母は、どんな時も、朝早くから、出社します。そして働きながらも、僕の通う中学校の学校行事には、必ず、参加してくれます。また、たまに僕が、気分が優れず、「学校を休んでも良いか。」と尋ねると、決まって母は、「休まずに学校に行きなさい。」と厳しい言葉で接してくれます。僕が将来、仕事に就いた時のことを考えて、社会の厳しさを教えてくれているのです。そんな母の姿から、僕は、仕事に対する責任感や厳しさを身近に知ることができます。また、僕のために一生懸命働いてくれていることに対し、感謝の気持ちを持たずにはられません。

地域の方々は、農業をされていたり、街の方へ仕事に出て行かれたりしています。農業をされている方々は、朝早くから、畑や田んぼへ行き、農作物を育てています。

「富貴」には、端正な田畑が広がっています。真心を込めて育てているからです。そして、移住されて来た方々もいます。その方々に聞くと、僕が、住んでいる地域は、「不便」だと考えている人が多いようです。でも、その「不便」こそが、「良い」と感じているということを知らせていただいた時は、僕は、驚きとともに、うれしさを感じました。「便利」であるために、「人間らしさ」が失われつつあるといわれる時代。この「富貴」には、本来、人として大切にしないといけないことが、たくさんあることに気づかされた言葉でもありました。

その地域の方々は、仕事を持たれながらも、中学校の大イベントの時には、必ずと言っていいほど、学校に来て下さいます。運動会や学習発表会などに、積極的に参加して、会場を盛り上げて下さいます。僕は、そんな姿を見て、とても温かい気持ちになります。

僕は、これまで支えてくれた母や地域の方のことを振り返ることで、「将来」についての考え方が広がったような気がします。「母」の姿から、改めて、仕事の厳しさ、責任感の大切さを知ることができました。また、地域の方々の姿から、環境の厳しさもありながら、前向きに、真心を込めて「生きる」ことの素晴らしさに気づくこともできました。なぜかという、その気持ちを持つことで、周囲を明るく笑顔にすることができるのです。実際に、僕は、登下校や学校行事などを通し、地域の方々と接することで、励まされ、明るい学校生活を送ることができています。

「今年は、将来について考える大切な年です。」という言葉は、僕の将来への扉を開けてくれました。そして、見えてきたのは、「将来の生き方」です。

「自分に責任を持ち、真心を込めて前向きに生きる。」そして、「たくさんの人を明るく笑顔にできるような仕事をする。」

これが、僕の「将来の生き方」です。

十五年間、「富貴」で学んだことと感謝を忘れずに。